

イラク石油省との 潤滑油製造技術事業実施の協定書締結

JCCP は、平成 25 年 10 月 9 日（水）、イラク石油省と「潤滑油製造技術に関する特別支援共同事業」について、同省 カリーム アブドルハサン アルワン石油研究開発センター長（Dr. Kareem A. Alwan, Manager, Petroleum R&D Center）および JCCP 吉田盛厚常務理事による事業実施協定書の署名式を、トルコのイスタンブールにおいて開催致しました。

署名式には他に、参加会社である JX 日鉱日石リサーチ（株）岡崎 肇代表取締役社長が出席し挨拶を行いました。また、イラク側および日本側双方の同事業関係者一同が参加しました。

現在イラクで生産されている潤滑油は、品質が十分ではなく、また生産の歩留まりも悪い状況です。個々の装置ごとに改善検討を進め、イラク・ダウラ製油所の潤滑油の品質向上、増産、生産性向上を図るのがこの事業の目的です。事業期間は、平成 25 年 4 月 1 日から平成 27 年 3 月 31 日までの 2 年間で。

この事業は、経済産業省の「産油国石油精製技術等対策事業」の一事業である「イラク特別支援」として実施する三番目の共同事業です。先の二事業は、平成 23 年に開始した「原油随伴水処理技術」および「アスファルト製造技術」に関するもので、いずれもイラク側より高い評価を得、感謝されています。当事業も同様に、関係各位の協力と努力により成功することが期待されます。

経緯および技術協力内容

イラク石油省および JCCP 研修等で過去に来日したイラク研修生からの情報、要望に基づき、平成 24 年度に支援調査事業として、イラクで生産されている潤滑油の品質や生産性についての状況を調査しました。その上で、潤滑油の品質向上、増産、生産性向上を目的として平成 25 年度から本事業を実施しています。



左より、イラク石油省
カリーム アブドルハサン アルワン石油研究開発センター長、
JCCP 吉田盛厚常務理事

技術協力内容として、ドーラ製油所第 3 潤滑油設備の実際の装置運転データを分析し、潤滑油の品質に直接関わる基油を生産・性状調整する各装置の改善検討を行っていきます。具体的には減圧蒸留装置や水素化精製装置、溶剤関連装置の運転データを解析すると共に、生産された潤滑油の品質を分析し、知見・経験に基づく運転改善案を提言して、その結果を検証していきます。

一例として、潤滑油の分析結果から減圧蒸留装置の塔での基油の分離性が悪いことが推測され、その対応として塔内部部品の補修・整備が必要であることを助言しました。また、水素化精製装置の反応塔の温度アップも提言しています。

本事業を通じて、潤滑油の運転管理や品質管理のポイントも指摘・助言することでイラク側の潤滑油製造に関わる認識の改善にも寄与しています。

さらに将来計画として、ドーラ製油所第 3 潤滑油設備で検討されている装置の改造に関しても日本側の知見、経験に基づく助言等の協力を行うことでイラク、日本両国の今後の友好関係に寄与していきます。

（技術協力部 永沼 宏直）



出席者一同

前列中央：署名の二人、
前列左から二人目：JX 日鉱日石リサーチ（株）岡崎 肇代表取締役社長、
前列右から二人目：イラク石油省（同事業イラク側リーダー）
モハメド ジャシム アッバス アジャム氏